

# 新年のご挨拶

(平成 28 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会より)

## 会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会  
会長 横塚 裕志

明けましておめでとうございます。

今日は大変多くの方にお越しいただきましてありがとうございます。経済産業省からは北村大臣政務官を始め幹部の方々にお越しただいていまして、大変ありがたいと思っています。また、遠藤政府 CIO を始めいろいろな団体の役員の方にもお越しただいていまして、我々情報サービス産業はますますこれから発展していかないといけないという気持ちでございます。



我々JISAは、昨年10月にJISA Spiritを発表しました。"ソフトウェアで「!(革命)」を"というのがメッセージです。ソフトウェアというものの可能性は無限大で、ソフトウェアがビジネスを創っていく時代になってきました。その進化はとても激しく、昨年の今頃は自動車が自動走行するという話がちらほら出ていましたが、今年には当たり前のようになっています。自動車だけではなくてトラクターも田んぼの中を自動走行する。いろいろな車も2020年には高速道路で自動走行するようになると言われていています。車庫入れや幅寄せなど、私の嫌いなことは全部自動で出来るといったことがもうすでに始まっています。

我々情報サービス産業がしっかり仕事をするのが、ソフトウェアで日本の産業競争力を高めていくこととイコールです。我々の産業が日本の産業を支えていく。こういう時代がついに本格的にやってきたということです。革命を、といってもなかなか難しい部分もあります。しかし、たった8人の小さな会社

でも、例えばソラコムのような通信事業者にもなれるのです。ソフトウェアの可能性は無限大であり、小さな会社でも価値のあるソフトウェアを創れば、それが大きな力になっていく。小さな会社にとっては大変恵まれたすばらしい時代がやってきたということです。大小の規模も、あるいは東京か地方かも関係なく、我々みんなで知恵を振り絞って、素晴らしいソフトウェアを創って、日本の産業競争力強化あるいは地方創生に取り組んで、お役に立てるようにがんばっていきたいと思います。今日、800名を越す会員の皆様が来ていらっしゃいます。今日、皆さんで"ソフトウェアで「！（革命）」を"ということを誓っていただいて、新しい年を新たな革命に向けたチャレンジ元年ということで取り組んでいただければと思います。

## 来賓挨拶

経済産業大臣政務官

北村 経夫

新年あけましておめでとうございます。本来ならば林大臣がここにまいりましてご挨拶申し上げるところでございますけれども、公務のため私が代わりに一言ご挨拶させていただきます。



新年明けまして、上海株の暴落、中東情勢の不安定化、北朝鮮の核実験等、いろいろなことが起こっています。今日も大幅に株価が下がっているようですが、今年は申年です。申年は内外ともに多事多難な年と言われているそうです。一方で、申年というのは形が見えてくる、努力したものが成就する年とも言われているわけで、いろいろ困難が出てくるかと思いますが、それに負けることのないように、必要な取組をしっかりと行っていきたいと思っています。

いま横塚会長のご挨拶で、力強いチャレンジ元年としての決意を表明されました。これまでも我が国経済社会の変革の担い手となるべく業界ビジョンを策定してこられたわけですから、心より敬意を表したいと思います。まさに皆様の方がこれからの日本の下支えとなり、引っ張っていく原動力となるであろうと私も感じている次第です。

私の出身は山口県でございます。この週末、安部総理とともにずっと総理の地元を回ってまいりました。そこで安倍総理が必ずお話をされたのは「アベノミクスも第二ステージに入りました。回り始めた日本経済の好循環を今年はさらに推し進めていきたい」という決意でございます。その際、いろいろな業界の方がおられました。ある企業は、20年くらい賃金を上げることがなかった。政府の要請により一昨年上げようということで取り組んだらソフトがもうなかったということです。賃金を引き上げるためにソフトを開発した。今年の安倍

総理の挨拶でも、もう一年さらに上げて下さいと賃金アップをお願いしておられました。経済産業省としても産業界の皆様には賃金を上げていただくと同時に投資の拡大等いろいろなお願いをしています。せっかく上手い具合に回り始めました経済の好循環です。本当にいろいろな困難があるかもしれませんが、それに負けることなくさらに推し進めていきたい。そういうふうにしっかり取り組んでいく決意です。

今年1月からマイナンバーがスタートし、来年4月からは軽減税率が適用されます。情報サービス産業の皆様にとっては、仕事が増えて大変良い業況ではないかと思いますが、いろいろなご負担をかけることも多いだろうと思っています。経済産業省といたしましては、軽減税率の適用に際しても、混乱が生じないよう皆様とともに緊密に連携しながら万全の準備を進めてまいりたい。この一年しっかりと取り組んでいく決意です。

新年にあたりまして、皆様のこれからのますますのご健勝と貴協会のご発展を心より祈念申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。

## 乾杯挨拶

独立行政法人 情報処理推進機構

理事長 富田 達夫

皆さん、あけましておめでとうございます。IPA の理事長に就任いたしました富田です。大変身の引き締まる思いで引き受けたところですが、実はまだわからないことがたくさんございまして、皆さんのご指導ご鞭撻をいただきながら業務を推進してまいります。今後ともよろしくお願ひします。



情報サービス産業協会におかれましては、30 年以上にわたって情報サービス産業の健全な発展に貢献いただいております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2020 年には東京でオリンピック、パラリンピックが開催されますが、その前後においては大きな変革が起こるだろうと様々な方々が予測していますし、我々 ICT に携わる者も明らかにそういう世の中になっていくだろうということを実感していると思います。JISA 様には、この大きな変革を牽引していただきたいという期待がございます。ぜひよろしくお願ひします。

昨年の後半くらいから IoT という言葉がどんどん報じられています。IoT に対する認識が高まってきているということだと思っています。IoT の重要性が認識されて、官民が協力する形で IoT 推進コンソーシアムが立ち上がっています。まさにオールジャパンで IoT のサービス支援体制が整いつつあると言えるだろうと思います。IPA も IoT コンソーシアムに入りまして、経済産業省との連携のもと IoT を使って新しいビジネスを興していくような企業に対して資金支援を行っていかうとしています。こういった支援を通じて、そのような企業から新しいビジネスが多数生まれてくることを私たちは非常に期待しているところ です。

IoT と並んでもう一つ重要な課題にセキュリティの問題があります。昨年、年金機構に対するサイバー攻撃がありましたが、そういうものが社会問題化することで、サイバー攻撃、サイバー犯罪に対する認識が非常に高まった年だったと考えています。サイバー攻撃、サイバー犯罪は非常に高度化・巧妙化しており、きちんとした対応をしていかななくてはならないというのが我々IPA のミッションの一つです。サイバーレスキュー隊というのがございますが、政府との連携のもとにサイバーレスキュー隊の活動支援を通して我々はその公的な活動を進めていきたいと思っています。しかし、高度化・巧妙化する攻撃の凄さを感じますと、我々の活動をさらに強化していくことが必要になってくると思っています。それは、ここにお集まりの情報サービス産業の皆様方との連携無くしてはなしえないと考えています。ぜひご協力・ご支援の程お願い申し上げます。

IPA の活動の3つ目のものとして、セキュリティ等の人材教育がございます。今年の春からセキュリティの重要性に鑑みて情報処理技術者試験の中にセキュリティマネジメント試験という区分を創設しています。企業の経営者の皆様や情報処理を利用される社員の皆様に知っておいていただきたい知識を出題していくということで考えていますので、ぜひ皆様方には委員会等の機会を通じてそういうものがあるということを伝えていただいて、多くの方に受験していただくようにしていただけたら有り難いと思っています。

以上、3つの点でIPA はがんばってまいります。今年はサイバーセキュリティの問題あるいはIoT の問題に向けて、産官学が心を一つにして日本の礎を築いていくという思いで一致協力してがんばっていく必要があると思っています。是非皆様方にも、一緒にがんばって日本の力を強くしていくところでご協力いただきたいと思います。